



国際情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第5号

〒950-2292 新潟市坂田みずぎ野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuis.ac.jp ホームページ http://www.nuis.ac.jp

「情報文化学」とは何だろう

情報文化学部 学部長 石川 真澄



私たちの大学は今のところ学部としては情報文化学部一だけの単科大学です。その学部名になっている「情報文化学」って何だ?という質問をよく受けます。

法学部、経済学部、文学部、理学部、工学部……といったところではそんな質問は余り受けません。本当は法学も経済学も、文学、理学、工学も、「……って何だ?」と訊かれたら答えるのは簡単ではないはずです。少なくとも訊かれたほうは相当地に長い説明をしなければと構えたりします。

ただ、そうした「学」は、日本に大学というものが出来たときからあって、長い間にたいていの人が何となく知っているような気になっています。それにひきかえ、わが「情報文化学」は、なにしろ本学が日本で最初に学部名にした「学」ですから、なじみがなく、皆が分かりにくいと感じるのは当然です。

私は情報文化学とは「情報化時代、それに伴う国際化時代の文化を考える学である」と答えるこ

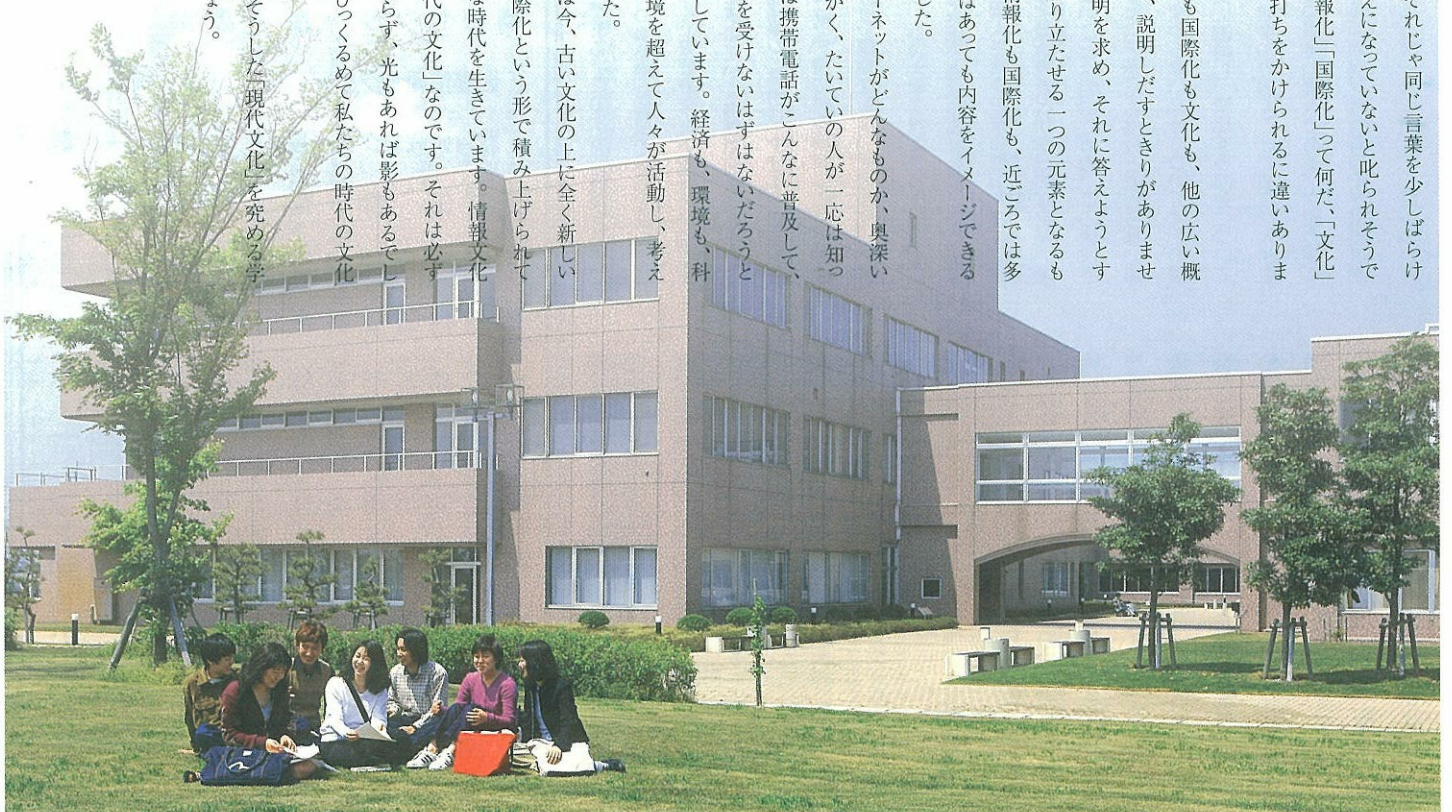
とにしています。それじゃ同じ言葉を少しばらけさせただけで、答えになっていないと叱られそうです。すぐさま、「情報化」「国際化」って何だ、「文化」とは何ぞやと追い打ちをかけられるに違いありません。

しかし、情報化も国際化も文化も、他の広い概念を表す言葉同様、説明しだすときりがありませんし、そもそも説明を求め、それに答えようとする行為が「学」を成り立たせる一つの要素となるものです。そして、情報化も国際化も、近ごろでは多くの人が漠然とではあっても内容をイメージできるものとなってきました。

たとえばインターネットがどんなものか、奥深いところまではともかく、たいていの人が一応は知っています。あるいは携帯電話がこんなに普及して、人間の文化が影響を受けないはずはないだろうと皆がうすうす予感しています。経済も、環境も、科学技術もすべて国境を超えて人々が活動し、考える分野となりました。

つまり、私たちは今、古い文化の上に全く新しい文化が情報化・国際化という形で積み上げられていくダイナミックな時代を生きています。情報文化とはそうした「現代の文化」なのです。それは必ずしもバラ色とは限らず、光もあれば影もあるでしょうが、それらをひっくるめて私たちの時代の文化なのです。

情報文化学とはそうした「現代文化」を究める学問だといえるでしょう。



無題

情報文化学科 学科主任 市岡政夫

かつばかな

カッパかな

河童かな

やっぱり かつば だな

私が、たしか中学一年の国語の時間に作文として書いたものだと思うが、今でも妙に記憶に残っている。もしかして芥川「河童」が頭の中にあつたのかもしれない。それとも何かカッパに関する昔話でも読んだ後だったのかもしれない。ひらがな、カタカナ、漢字、三種類の文字を持つ日本の文字文化にもっと注目したいと思う。

言葉が時代とともに変化していくのは避けられないことではあるが、最近の日本語に急に懸かるのが所謂「半疑問イントネーション」だ。学生たちにロシア語を読ませてもこの影響が出てくるのには、実はホトホト困ってしまう。これまでは若い女性たちの流行だと思っていた。しかし、今ではいい年をした中年男性までが、テレビのコメンテーターとして堂々とこの奇妙なイントネーションを多用している。虫酸が走る思いである。

携帯電話大流行の昨今だ。電車の中でも、一人歩きをしていても、平気で電話機片手に一人独り占めで、喜んだり、怒ったり、泣いたり、笑ったりしている。恐ろしい光景だ。もしかすると人間は対面して話をすることを忘れてしまつたのではないか。

学部運営

新体制発足

学長、学部長の任期満了にともない、平成10年4月より、小沢辰男理事長が学長を兼務し、学部長に石川真澄教授が就任しました。それと同時に、情報文化学科および情報システム学科に新しく学科主任を置き、機能別の委員会活動と合わせて学部の運営が行われる体制となりました。新役職教員委員長は表の通りです。

役職教員・委員長 (平成10年度)

役	職	氏	名
情報文化学部長		石川	真澄
学科主任(情報文化学科)		市岡	政夫
学科主任(情報システム学科)		槻木	公一
情報センター長		高瀬	昭治
図書情報セクター長		高瀬	昭治(兼)
教育研究セクター長		永井	武
学生部長		高木	義和
入試実施委員長		原口	武彦
学習指導委員長		内山	鉄二郎
教育調査委員長		赤木	敏子
総合計画委員長		浦	昭二
地域交流委員長		渡辺	忠
国際交流委員長		海野	芳郎
就職指導委員長		池田	庄治
広報委員長		竹並	輝之
人事委員長		松崎	奈岐

情報システム学科で学ぶこと

情報システム学科 学科主任 槻木 公一

学科名にある情報システムとは、人間の社会的な営みや企業の業務活動に必要なさまざまな情報を集め、蓄え、役に立つ形に加工して伝達する仕組みのことである。この仕組みを構成する要素には、人間そのものの企業、社会、コンピュータ、通信ネットワークなどがあつて、それぞれの適切な役割分担と相互の協調作用によつてはじめて良い情報システムを実現することができる。すなわち、情報システムとは技術中心のコンピュータシステムを指すものではなく、人間の活動を中心とした社会的なシステムとして捉えなければならない。

人間の社会的営みや企業活動は、地域文化とか企業文化という個別的で独自的な特徴をもち、コンピュータや通信ネットワークの分野では標準化とかプロトコルといった共通性、同一性が重視される。また、前者は多様性、あいまいさを認める領域であり、後者では厳密

性、緻密性が不可欠である。このように情報システムが位置する領域はいわゆる複合領域であり、唯一解だけを求めるのではなく、異分野同士が知恵を出し合う中でより最適な解を求めていく世界である。したがって、情報システムを理解し、活用し、デザインする能力を身につけるためには、学習の対象領域に応じて柔軟性と厳密性を使い分け、偏食をしない学習態度が必要である。

現在、コンピュータ技術、通信技術はもとより、国際化のうねりによつて個人生活や企業活動も大きな変革の時代を迎えている。最新技術とか今日的な企業活動というものの命が短いことは明白である。この状況下で学ぶことは、変革によつて変わる部分と変わらない部分の見極めである。変わらない部分についてはその領域の基礎知識を確実に習得し、変化する部分については学習するプロセスを学んでおくことである。大学生は専業学生としての最後の機会である。学習の場における「大人」として自己研鑽、他者尊重の学習態度をぜひ身に付けて欲しい。

新任教員紹介

教授 稲宮 健一
いなみや けんいち

担当科目：マルチメディア情報処理、情報処理演習等
専門分野：宇宙工学、特に自分の位置を正確に求める航行通信衛星システム、ロケットを追跡するレーダーや衛星の追跡管制システム。
経歴：1964年早大修士、95年工博、91年まで三菱電機(株)、と98年まで三菱スペース・ソフトウェア(株)に勤務。この間95年スタンフォード大学客員研究員

会社生活で印象深かったことは日本の最初の静止衛星「きくづし」の静止軌道投入を実現させるため大きな寄与が出来たこと。また、仕事をする上では自分の参加が何らかの新しい局面をもたらすよう心掛けた。物質的に恵まれた現代は過去と大きな違いがあるものの、もでは得られない充足感を求めるのが我々共通の心情です。

大学では自分なりに大きな将来の自分のイメージを描けるような感覚を会得されることを期待します。

平成10年度 323名が入学

4月6日(月)午後1時から本学140教室において、第5回入学式を実施した。

新入生合計323名、情報文化学科129名、情報システム学科194名、父母約260名、来賓および教職員多数出席のもとに、式典が挙行された。新入生を代表して情報文化学科津田綾乃さんが抱負を、在学生を代表して情報システム学科3年山口潤君が歓迎の言葉を述べた。

新入生特集

マイペースでチャレンジ

情報文化学科 明石 はる菜

私は県外出身です。だからこの学校に入ったときすぐびっくりしました。ほとんどの人が県内出身でななかついていけなそうな気がしたからです。フレッシュマンキャンプの時は本当にたいへんでこの大学を選んだことにすぐ後悔しました。でもすぐに友達ができ、今では楽しい生活を送っています。

ところで、なぜこの学校に入ったのか自分で考えることがあります。就職のため？やりたい勉強があるから？色々考えます。多分就職のためです。将来やりたいことがあるから、今から少しずつ努力するしかないんだなあと思っています。

大学は人に左右されることがなくすべて自分で考え

4月7日(火)には、ガイダンスが行われ、その後全員が一泊二日のフレッシュマンキャンプ(於厚生年金スポーツセンター)に参加し、大学生活のスタートを切った。



なければなりません。楽なようで実は厳しいと思います。でもあまり気負わず、自分なりに大学生生活を送ろうと思います。そして今まで出来なかったことや、やったことのないことにたくさんチャレンジして、いろんなことを吸収し楽しみたいです。

私の抱負

情報システム学科 石川 晃典

「パソコンを使えるようになること。」これがこの大学に入学しようと思った一番の理由です。今では入学から二カ月がたち、授業やあき時間で使用して少しずつパソコンが使えるようになってきました。これからもう一生懸命授業等に取り組んで、テキストなしでも自由にパソコンが使えるようになりたいです。

ここまでが私の第一の目標、抱負です。そして、しっかりとパソコンを使えるようになったら、第二の抱負としてパソコン等の資格を取りたいと思っています。就

職に役立つということが第一の理由です。普段の大学の勉強の他に資格取得のための勉強もしなければならぬので大変ですが、就職活動が始まった時、少しでも楽に、有利になるように今できることをやりたいと思っています。

この二つをこれからの抱負として、大学四年間をがんばっていききたいと思います。

資格取得を目指して

情報システム学科 石川 雅浩

この大学に情報処理の技術と知識を身につけたいと考えて入学しました。この大学で約二か月勉強しましたが、まだパソコンなどは基本的なことしか学んでいません。しかし、マッキントッシュに触るのは初めてだったので四苦八苦しています。今、学んでいることは本当に興味深くまた楽しいことです。このことは、パソコンの講義に関してだけではありません。その他の、自分の見識を広げてくれる講義などもとても興味深いです。しかし、もっと難しい事を勉強するようになると

楽しいだけではすまない時期もきつとあると思います。が、そういった時期も努力してあきらめないで自分なりの結果をだしたいと考えています。この結果が何かは、知識がないのでまだはつきりと分かりません。しかし今は、あやふやな知識では取得することのできない情報処理技術者資格などを取得することがこの結果になるのではないかと考えています。とりあえずは、この結果をだすことが私の抱負です。

大学生活を有意義に過ごすために

情報文化学科 今井 誠

「大学生活を有意義に過ごす」これが僕の抱負です。この抱負に従って、また何か今までは違うことをや

つてみたかったため、僕は入学と同時に学友会執行部に役員として参加することにしました。これまでのところ短期間というものの実際に学友会の活動に参加してみることによって、大学の行事等に深く関わることができたのと同時に、友人との結びつきを強めることができたように思われます。

この様に積極的に行動を起こすことで、今までとは違う自分が見えてくるのではないかと更なる期待をしています。そして、大学生活をより有意義に過ごせるのではないかと考えています。勿論、僕自身それだけでは満足していません。むしろそれで満足したら終わりたいと思っています。一つ一つのこと満足して止まることなく、学友会の活動だけでなく、勉強や、クラブ活動においても邁進していききたいと思っています。

雨ニモマケズ 風ニモマケズ

情報文化学科 金丸 佳代

私は近年、特に注目されている互いに近い国ながらも多くを異にするアジアの文化に魅せられ、九州から来ました。

新潟は環日本海圏の中心に位置し、昔から隣国との交流も盛んであるとのこと、これから世界各国が21世紀に向けて再編されていく中で環日本海圏として、どのように発展していくのか肌で感じる事が出来ればと思います。

ある国を注目するにしても日本からどんな視点で見るとかにより見え方が違ってくるように思っているので、多角的にアプローチできる技術を身に付けて、この新潟を世界への出発地にしたいと思っています。

駅から大学まで強く吹く風は大変ですが、「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」の精神で頑張り、そういうものにワタシハナリタイ。

人との出会いを大切に

情報文化学科 菊地 千都

この大学に入学して、まず初めに感じたのは、高校にはなかった自由な時間が持てたことである。この時間を生かして様々な事に取り組みたい。特に、人と人との交流を深めていきたいと考えています。

文化や習慣の相互理解が必要とされている現状を直接、交流を通じて感じ、日本だけでなく、海外の人々の心や慣行を国際的な視野から学びたいと考え、その知識をどのようにして、これからの自分に、こころからの社会に生かしていくのかを考えることが、大学生としての役割だと再度、自分に言いかけて生活しています。様々な事柄に貪欲に取り組み、人と人との出会いを大切にし確実に力をつけ、一回りも二回りも大きな人間として、この大学で成長していきたいと思っています。

自分から話しかけたい

情報文化学科 木村 智子

大学に入学してから二カ月余りが経ち、一人暮らしや大学生活にもようやく慣れてきました。入学当初からの私の目標は充実した日々を過ごせるように努力することです。しかしこの目標はあまり達成されていません。というのは、私の場合、ゼミとサークル活動があり充実していません。ゼミは、地理学は中学の基本的事項しか知らないのですね。ゼミでみたいと思えるもの、高校で地理や地学を学んだ人に比べて基本的なことがわかっていないせいか、十分な理解ができず、質問もつまづきません。サークルも何をやっていいのかかわからない時があったり、友達や先輩とつまづき話せなかつたりといまいち楽しみを感じられない時があります。ですから、これからはゼミの授業を理解でき

るようにすることとサークル内でもっと自分から話してサークル活動を楽しめるようにすることが私の目標です。

大学で何をやる?

情報文化学科 久保田 和代

『大学で何をやる?』そんな質問をされて、さてなんと答えるか。やりたいことはたくさんあり過ぎて一つに絞るなど出来そうもない。折角大学にきたのだからそれなりに勉強もしたい。サークルにも入りたいし、先輩も欲しいしバイトもしたい。興味のあるものもたくさんある。例えば『人間』。その存在自体が既に謎だ。ただの細胞の塊が動いたり喋ったり、さらに気味の悪い事に感情なんてものまで持っている。しかもところ変われば肌の色、考え方から何からまるっきり違う。やはり人間は謎だらけ、と思わずにはいられない。そして勿論私の興味の対象は、一つだけにとどまるわけではないのだ。『大学で何をやる?』何、焦ることはない。かけらでも興味のあることに体当たりすることから、と思いつめる。そう、動いたり喋ったり考えたり、『人間らしく』。

不安の中から

情報システム学科 小林 龍央

人間、常に何かに追われている。高校受験に始まり大学受験や就職活動。無論、就職できたとしても一生それで飯を食っていく保証はどこにもない。自分の場合、高校の時は進路よりも進級、卒業の方が心配だった。そしてこの大学への入学が決まってもそれで安心することはできなかった。

例えば授業スタイルが高校までとは全然違うということなど些細なことでも不安な点でも結構不安

材料になったりする。

だが、私にはこの校風が明るいものというイメージがあったので、とけ込めることができればやがて不安も解消されるのではないかといい見方もしていた。実際には煙草の匂いが広がる校舎、傷つけられた壁。授業中の携帯電話の音と私語、消しゴムの消しかすが絶えることのないマルチメディア教室など、他の大学へ進んだ友人達にこのことを話すとみんな顔をしかめる。そういった風景により不安はいっそう膨らんだ。唯一前向きに見るとすればこれからの生活に自分がどこまで耐えられるかがひとつの様に楽しみに思えてきたということだろう。

大学生になつて

情報システム学科 菅家 義和

今年の4月から大学生になつて別に変わった事は余りないのだが、自分が感じた事を書いてみると、まずクラスの事についてだが、高校までだったら、ある程度共に行動したが授業を受ける度にメンバーが変わっている。それと、今までだったら先生が『明日はくするぞ』などと予定や連絡を言ってくれたが、今は掲示板にある告知などを見て行動しなければならぬ。

大学では、今はまだわからないのだが、きっとこれから様々な人々と触れあひがあると思つたが、そういった触れあひを大切にしていきたいと思つている。またこの大学はコンピュータの施設が充実しているので、これをフルに活用して、コンピュータの操作を上達させたいと思つている。

私の夢

情報システム学科 長井 卓也

「夢」皆さんはこの言葉についてどんな印象をお持ち

ちだろうか、私はとても美しく、素敵な素晴らしい言葉だと思ひます。私はこの「夢」という言葉が大好きで、それだけで御飯3杯はいけます。いやまてよ、4杯かな。高校の時、いやまてよ中学かな、私はサッカー部に所属していました。いやまてよ3杯かな、という理由で、私はこのNUIでもサッカー部に所属しており、僕には夢があります。まあ僕だけに限らずこれを夢中になつて読んでいるあなたにもきっと何らかの夢があるはずで。そして、たとえその夢がかなわなかつたとしても、その夢をかなえようとして一生懸命努力したことはいつかきっと報われるはずで。

ですからたとえかないうちに、はかない夢でも決してあきらめたりせず、いつまでもその夢を追いつけていきましょう。

NUIに入学して思うこと

情報システム学科 成瀬 伸彦

入学式当日、私が感じたのは不安。授業についていけるだろうか——とゆつとだけだった。私の通っていた高校は、勉強よりも部活に力をそそいでいたためにどう考えても授業についていくのは容易ではないと思つたからです。大学の授業がどういったものか分からなかつたのがそう思わせた原因だろう。

この大学の授業は、高校のように知識をただ詰め込むといったふうではなく、その授業を通じて何かを感じ取る、といった感じが強いように思つた。この大学を選んだ理由の一つは、コンピュータの事をもっと勉強したかったからだ。大学生活を通じての目標はコンピュータの資格をとることなので、努力していきたい。一時間半の授業は長いけど結構楽しいのでなんとかやって、とれる単位はとっていきたいと思ひます。この大学に入れてとても良かったです。

私の指針

情報システム学科 前川 大輔

新潟国際情報大学に入学してから二か月程が過ぎ、初めはとまどっていた新しい環境にやっと慣れたが、今は漠然とした不安が少しずつ自分の心を取り巻いている。

今までの小・中・高等学校での生活は与えられたノルマをこなすことが中心で、自由な時間は無かったとは言わないがそう多いわけではなかった。この国際情報大学には自由な時間が豊富にある。だがその自由にはそれに伴う責任がある。ここでは自分で考え、行動しなければならぬ。今、不安だと思つのは自分がまだ何も行動していないし、自由を持て余しているからだと思つが、それは仕方がないことだと思つ。あくせとする必要もないし、のんびりする必要もないと思つ。これからの大学生活を通じて、今はまだ漠然としていて未来への目標を具体的にしていけるのだから。4年間という限られた時間の中で、自分のやるべき事を考え、ときにはおもいつき遊びながら、目標につ走り最大限の努力をしていきたい。

打ち込めるものを探そう

情報文化学科 前田 崇

長きに渡って辛くて苦しかった受験勉強からようやく解放されたと同時に新潟国際情報大学生になれたわけだが、今、自分の中で何か釈然としないものを感じる。それはなにか？最近そのことについてよく考えるが、考えて自分で見出した答えは、たぶん自分が今、「何をしに大学へ来たのか？」ということだ。今までにそんなことは思いもしなかったし、考えたくもなかったが、そんなことばかり言っていると、無意味な大学生活

になりそうだから、ここでしっかりとこの疑問を受けとめ、考え、理解しなければならないと思つ。

これからの四年間を有意義なものとするためにも、まずはこの新潟国際情報大学で、何か一つでもいいから打ち込めるものを見つけ出し、それを徐々に大きなものにしていくことが現在の自分の目標だ。

国際的な視野を身につけたい

情報文化学科 若林 絢

以前より私は、グローバルとか国際化という言葉が好きで、この大学に入学したのは、国際的な視野で物事を考える力を養成するという点に強く魅かれたからです。ちっぽけな島国で生活している私達日本人の多くは、どうも異国人を見ると一線を引いてしまいがちです。それに外国へ行つても、どうも日本人という殻に閉じこもったままだのような気がします。この先ますます国際化していかねばならないのに、こんな事でよいのでしょうか。私はこの四年間で世界の事情、風俗、文化を学んで国際的な視野に立つて物事を考える力を身につけようと思ひます。

また勉強以外の面でも自分の新たな可能性を見つけられたらいいなと思ひています。

大学に入学して

情報文化学科 渡辺 里美

私がこの大学に入学して思つたことは、とても設備が充実しているということです。コンピュータも初心者用から少し難しいものなど、いろいろなものがたくさんあるのに驚きました。

図書館も閲覧室のテーブルがとても広く、一人一人の机もあるので勉強する時に便利だと思ひました。ビデオや音楽が観賞できるコーナーもいいと思ひました。

この大学に入つての抱負は、授業に出席してまじめに受け、単位を落とさないようにすることです。とくに必修科目はがんばりたいです。

発見とチャレンジ

情報システム学科 渡邊 里美

入学してから早いものでもう三ヶ月が過ぎました。入学したばかりの頃は、毎日が不安と緊張とでいっぱい戸惑ってしまつことが多かったのですが、今は授業の流れもつかめてきて、何でも話せる友人もできました。毎日の中で大変なこともあります、それ以上に楽しい毎日を送っています。

大学で自分がやりたいことはまだはっきりと決まっていませんが、なんとなく過す四年間だけにはしたくないので、大学生でなければできないようなことを発見してチャレンジしていきたいです。そして、単に知識や技術を身につけるだけでなく一人の人間としてさらに成長し、四年後、「自分にはこれしかない。」と思えるようなやりがいのある仕事を見つかけたいです。

新潟国際情報大学に入学して

情報システム学科 羽賀 晴彦

私がこの新潟国際情報大学に入つてまず思つたことは、勉強するにはとても良い環境だということです。大学の周りには豊かな自然が広がりとてもおだやかなふんいきで勉強できます。それに、マルチメディア実習室には大変多くのコンピュータが備わっていて、空いている時間はいつでも使えるので、コンピュータを使ってみたかった私にとってはとても良いことでした。

また、入学してすぐにガイダンスがあったせいか、すぐに多くの人々と友達になれました。やつぱり4年間勉強やバイトだけなんてつまらないと思ひます。中学

や高校の時の友達もたくさんいるけれど、友達が多ければ多いほど人生楽しく生きていけると思ひます。昔は部活と勉強を両立しようと思ひていて駄目だったけど、今はあそびと勉強を両立できると思ひます。

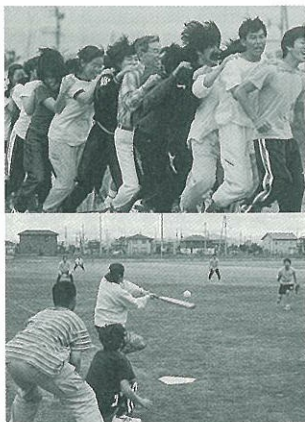
スポーツ大会に活気

6月3日、恒例のスポーツ大会が行われた。「なんだかうちの学生は元気がないな」。これが設立初年度の我が大学の学生についてのイメーシであった。先輩もなく、どうすればいいのかがよく分からなくて、色々戸惑いが多かった。そこで、「何とかしよう」という気持ちからスタートしたのが「スポーツ大会」であった。

今年は、「交流を深めよう、自分達が楽しめる大会にしよう」というスローガンのもとで、学友会執行部の素晴らしい企画と、1年のゼミ・クラス代表によるテンポのよい進行、多くの教職員および学生の参加という3拍子が揃った。そして、参加者からは「面白かった」という声が大きかった。

表彰式の挨拶でも、学部長は「うちの学生を見直した！」と、率直な感想を述べていたが、我が大学の学生の熱い情熱とエネルギーの一面が表出されて、とても良い大会であった。

(学生部委員 柳 在相)



就職状況

平成10年3月31日現在の本学第一期生の就職率は、学生諸君の懸命の努力と、教職員のサポートの結果、98%を達成した。大変喜ばしい結果である。就職先は県内本社60%、県外本社40%である。業種別就職状況と就職先一覧は図表の通りである。

二期生以降の学生諸君が就職先選定にあたってまずやるべきことは、自分が25才、30才、40才になったときどのような仕事をしていきたいかを決めてから、それを実現する会社をさがすことである。学生諸君が知っている会社の数は少ないので、会社説明会などで一つでも多く、知らない会社について話を聞いて自分の将来に近い会社を見出すことが必要である。これからは、つぶれそうもない会社も倒産するので、つぶれた後でも、他の会社がすぐ欲しがる能力を身につける会社を選ぶとよい。

その視点でこれから求められる人材は、一般的に言えば情報関連であろうし、人が余っているのは、建設その他新聞に書かれている業界がいろいろある。学生諸君は、世の中の動きをよく見ながら、自分の将来を決めて欲しい。

平成10年6月17日現在、二期生の内々定率は約20%であり順調に推移している。学生諸君は、nuis就職の手引(毎年2月発行)とnuisのwebページにある就職情報システムをよく見て、就職活動に役立てて欲しい。

(就職指導委員会)



卒業生就職先一覧

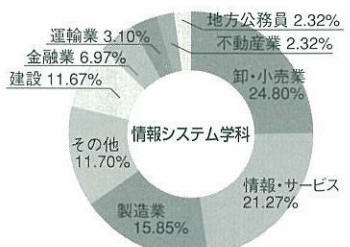
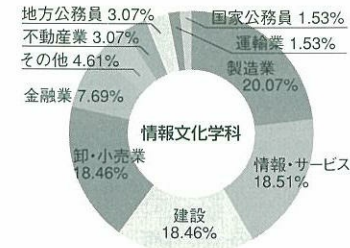
平成10年3月

- 東京工業大学
- 信越郵便局
- 新潟市役所
- 白根市役所
- 新発田市役所
- 糸魚川市役所
- 西川町役場
- 加治川村役場
- ㈱アークベル
- アークランドサカモト(株)
- ㈱愛知総合研究所
- ㈱アイビー企画
- 昱(株)
- 昱工業(株)
- 亜光電機
- ㈱アテナ
- ㈱アルプス技研
- ㈱イエスト
- イトヨーカ堂
- ウインズオフィスコーディネーター(株)

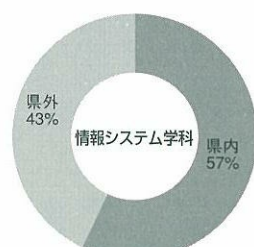
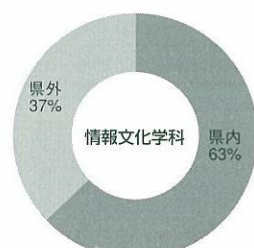
- (株)ウオロク
- SEEC
- 越後交通(株)
- 越後中央農業協同組合
- (株)NS・コンピュータサービス
- (株)エヌ・ティ・エス
- (株)往原製作所
- 大阪有線放送社
- (株)大合ホームセンター
- (有)大町調剤薬局
- 岡野電気工務(株)
- オギ医理科商事(株)
- 小千谷消防署
- 角上魚類(株)
- カネ美食品(株)
- 川崎設備工業(株)
- 協栄信用組合
- (株)清野屋
- (株)クレスト

- (株)柳谷組
- 頸城自動車
- (株)熊合組
- クラッシュアンドカンパニー
- グリーン産業(株)
- くるまやラーメン
- (株)KCC
- 興栄信用組合
- コマツ新潟(株)
- (株)コメリ
- (株)コンピュータシティー
- 佐川印刷(株)
- (株)三宝
- (株)サンロード
- JA五泉よつば
- システムリサーチ(株)
- (株)芝通
- ジャスコ(株)
- (株)ジョイフルタウン
- (株)ジョイフル本田
- 上越コンピュータサービス(株)
- ジョインタナショナル
- 信越情報システム(株)
- 新印食品(株)
- 新日ハウスシステム(株)アイフルホーム
- スペース(株)
- 星光堂薬局
- 積水ハウス北陸(株)
- セコム上信越
- (株)センシユリハウジングシステム
- アイフルホーム
- セントラル商事
- 全日空システム企画(株)
- (株)センリン
- ダイア建設(株)
- (株)第一印刷所
- 第一製菓(株)
- 大興電子通信(株)
- (株)第四銀行
- ダイナム
- (株)ダイナム
- DAI PROX
- (株)ダイワフューチャーズ
- 大和ハウス工業
- 大和冷機工業(株)
- 高砂熱学工業(株)
- (株)高助
- (株)武富士
- 中央出版(株)
- 千代田設備

業種別就職状況



就職先(本社所在地)



- 地方公務員 3.07%
 - 不動産業 3.07%
 - その他 4.61%
 - 金融業 7.69%
 - 卸・小売業 18.46%
 - 建設 18.46%
 - 情報・サービス 18.51%
 - 製造業 20.07%
 - 運輸業 1.53%
 - 国家公務員 1.53%
-
- 地方公務員 2.32%
 - 不動産業 2.32%
 - 卸・小売業 24.80%
 - 建設 11.67%
 - 金融業 6.97%
 - 運輸業 3.10%
 - 製造業 15.85%
 - 情報・サービス 21.27%
 - その他 11.70%

北京大学建学百年記念式典に 当大学より二教授招待される

今年は、北京大学の建学百年に当りその記念式典が、五月上旬に開かれ、当大学から二教授が招待された。

北京大学歴史学部から、当大学の学長、情報文化学部長と區建英教授に招待状が来て、参加した様子は、區先生の寄稿文の通りである。

情報文化学部の蔡建國教授は、北京大学当局から招待された。蔡先生は、五月四日人民大会堂における記念式典の他、国際天体委員会が命名した「北京大学星」の命名式や祝賀大会等の一連の記念行事に出席した。

蔡先生は、五月九、十日に亘って開催された近代中国の初代文部大臣であり、北京大学学長であった蔡元培についての「蔡元培生誕百三周年記念国際シンポジウム」において「蔡元培精神の時代意義」と題して発表した。

また、蔡先生の蔡元培に関する研究著作『蔡元培と近代中国』（上海社会科学院発行）は、この記念行事に参加した貴賓への記念品のひとつとして採用された。



写真は、「北京大学星」の命名式における陳北京大学長と蔡先生

「稲宮教授が国際会議で議長」

— ST-の(21st International Symposium on Space Technology and Science)は日本に2年おきに開かれる宇宙技術と科学に関する一番大きな国際学会で、21回目の今回は5月24日から31日まで大宮市で開催されました。主な分野は打ち上げロケット、宇宙環境利用、衛星通信、地球観測、月や惑星探査等の多岐に渡り、国内外の研究機関(宇宙科学研究所、NASA、NASA等)、企業の方々で企画され、海外からも

多くの参加者がありました。

稲宮教授はAdvanced Systems and Technologiesのセッションで、議長を務めると同時に、自分の研究課題である次世代向けの航行通信衛星システムの構想に関する発表を行いました。

「新潟国際情報大学紀要発刊」

本学の「紀要」第1号が、この春、ようやく創刊されました。

大学の果たす役割には、学生の教育という「教育」活動と並んで、教員による「研究」活動という二つの側面があげられます。後者の調査・研究活動の成果を集成したものが紀要です。その意味では、紀要は、研究活動の領域やレベルを示す、大学の貴重な「顔」といっても言い過ぎではありません。大学によつては、学生の論文寄稿を認めている紀要もありますが、本学では、まだそこまでは開かれていません。

教員が何を研究しているかは、普段の授業だけではなくは類推できない面があります。紀要を読めば、その理解と関心が深まることでしょう。部数に若干余裕のある創刊号について、学生諸君の希望者にも配布できるかどうか、目下、考慮中です。ご期待ください。

(紀要編集委員会・前代表 高瀬昭治)

教員の著書、出版物

浦昭二・細野公男・神沼靖子・宮川裕之共編著

「情報システム学へのいざない」

人間活動と情報技術の調和を求めて」

培風館、1998年4月

情報システムという、すぐにコンピュータを連想する人が多い。確かにコンピュータは欠かせない道具であり、ますますその影響が強まってきたが、それだけですむわけでは

はない。人間の情報への感性について認識を深め、情報の立場から人間活動・社会活動を見おろして、広い立場から情報システムを見ることができなくてはならない。それに向けてのきっかけを与え、またその核心を探ることを意図したものである。

田宮治雄、神 俊作著

「会計情報システム設計ハンドブック」

中央経済社、1998年5月

連結会計中心の会計への移行を視野に入れ、また、帳簿書類の電子化や電子情報開示システム(E-DINET)など最新の動向も踏まえて、より有用な会計情報の生成と迅速な開示のために、今後の会計情報システムをどのように実現すべきかを論じている。

石川真澄著

“New heights, louder message: abstentions in Japan's national elections, 1993-95”

ロンドン、猪口孝編「Japanese Politics Today-Beyond Karaoke Democracy?」(Macmillan Education Australia社刊、1997年秋)の第3章として執筆。近年の日本の国政選挙で棄権が果たした役割について論じたもの。95年7月にオーストラリア・ブリスベンで行われた同国日本学会の第8回隔年次大会の「平成政治ワークショップ」で発表した内容をもとに書き下ろした。

田村正勝・白井陽一郎著

「世界システムのゆらぎの構造」

EU・東アジア・世界経済」

早大出版部、1998年6月

「ヨーロッパ統合の新展開：主権国家システムのゆらぎ」というテーマの第二章を担当しました。分量にして100ページほどです。現代ヨーロッパ論を受講している学生や、また国際経済論を受講する予定の学生は、ぜひ一度紐解いてみてください。

蔡建國著 スティシラ訳

「蔡元培：東西文化の橋」(独語)

ドイツ・リート出版社1998年

本書は、ドイツに五年間留学し、中華文化の根底を培い、また、西洋文化の精髓に精通する、近代中国の初代教育総長・文部大臣であり、北京大学学長であった蔡元培氏の近代化思想を分析し、東西文化の架け橋として、また、近代中国指導者の一人として文化、教育などの領域で彼が果たした役割を検証している。

柳在相著

労働省ビジネス・キャリア制度認定・専門能力開発講座

経営企画分野テキスト

社会経済生産性本部 1998年4月

- ①「経営戦略中核理論」
- ②「経営戦略・イノベーション」
- ③「経営戦略実行・評価」
- ④「経営企画概要」
- ⑤「経営戦略策定」
- ⑥「経営計画策定プロセス」

情報処理技術者試験 受験講座開設

10月18日(日)に行われる情報処理技術者試験に向けて、資格取得の対策講座を開設するので、希望者は申し込むこと。

対象講座…第二種情報処理技術者

参加資格…本学学生(学年を問わず)

予定日時…8月3・4・5日および9月上旬

10月初め(模試試験)

費用…約1万円

問合せ・申込み…就職課

「寄付受け入れのお知らせ」

昨秋に発足した本学の父母会から、この度移動式ステージ、学友会用連絡ロッカー、図書購入費として総計4百2拾万円を、また、第1期生の卒業に伴い卒業生一同と初代学友会会長の高橋毅さんからそれぞれ記念樹(梅・バナナトチノキ)を御寄付戴きました。

北京大学百周年記念式典に出席

情報文化学科教授 區 建英

今年（一九九八年）は、中国の最高学府である北京大学の設立百周年に当たります。新潟国際情報大学は学長、学部長と教員の私が北京大学歴史学部からこの百周年記念式典への招請状を受け、私がわが大学を代表して、この式典に出席しました。新緑の海に伝統的な建築が林立する北京大学のキャンパスへ、世界各国と中国各地から約四万人の学友および教育関係者が集まってきました。

五月二・三日、世界各地からの約百名の大学学長が「世界大学学長フォーラム」に参加し、二十一世紀における人類の教育、大学の役割、大学と社会との関係などについて討論を行いました。このフォーラムは国境と権力を超えた知的共同体の世界的連帯として、国連事務総長アナンに高く評価されました。五月四日午前、人民大会堂で行われた盛大な記念式典には、私も八千人

「大和淳二教授に勲3等瑞宝章」

この度1998年春の叙勲で、情報システム学科の大和淳二教授が勲3等瑞宝章を受章されました。同教授は通信省、日本電信電話公社、新潟大学を経て本学教授に就任されましたが、画像通信その他電気通信関係の業績に対して栄えある叙勲を受けられたものであります。

この叙勲については、小沢学長からも5月27日に記念の品を贈呈し、この栄誉を称えました。



热烈欢迎



の代表の一人として参加しました。教育と学問の分野で圧倒的な影響力をもつ北京大学に対し、政府も重視していることを示すために、江沢民、李鵬、朱鎭基をはじめ国家の主要な指導者七人が出席し、江沢民は演説を行いました。

北京大学は清末、民国、北洋軍閥政府などの時代に政治権力からの圧迫を受けてきました。しかし、民主と科学という理念「勤奮・嚴謹・求实・創新」という学風が大学の精神的伝統として強靱に生き続けています。

この精神的伝統はいかなる困難にも屈せず、歳月を経ても衰えず、今日ますます生命力を表わしています。新潟国際情報大学はこのような気高い精神を持つ北京大学と交流することができ、北京大学が呼びかけた知的共同体の世界的連帯に加わることができ、まことに光栄です。五月四日の午後、歴史学部はその伝統的な四合院の庭で歓迎会を行いました。私はここでわが大学学長の祝賀メッセージを代読させていただきました。北京大学の学友や教員たちからたいへん好意的な拍手を受けました。この記念式典への参加をきっかけとして、私たちは今後、相互の交流を深めていくために頑張りたいと思います。

平成11年度

入試案内

新潟国際情報大学は、開学以来、5回の入試を実施してきました。18歳人口の減少により志願者数は低下傾向にありますが、本学の特徴を理解し、本学を第一志望とする受験生の比率が大きくなってきているのは、うれしいことです。

平成11年度の入試は、以下の日程で昨年と同じ方式で行います。（入試実施委員会）

■高校長推薦入試

指定校 出願期間

10.11.2(月)～10.11.7(土)

公募制

試験日 10.11.15(日)

■一般入試

小論文・面接

試験日 11.2.17(水)

前期

試験日 11.2.3(水)

■特別入試

社会人

試験日 10.11.15(日)

教員の昇格人事

(平成10年4月1日)

教授 區 建英	情報文化学科
教授 蔡 建国	情報文化学科
教授 宗澤 拓郎	情報システム学科
教授 明石 欽司	情報文化学科
教授 榑 俊作	情報システム学科
教授 正田 達夫	情報システム学科
教授 高橋 正樹	情報文化学科
教授 樋口 光明	情報システム学科
教授 早川 貞三(広瀬)	情報文化学科
教授 藤瀬 武彦	情報システム学科
教授 松井 孝雄	情報システム学科

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

広報委員長 竹並 輝之

4月に広報委員会のメンバーが一新されてから、初めての「国際・情報」の発行です。

紙面を一新するなどにはできませんが、大学の動きや教員の活動を伝える記事を多くしたいと考えています。また、父兄や学外にも積極的に配布し、本学についての理解を深めてもらう一助になるように工夫したいと思っています。

巻頭言で、石川新学部長が、「情報文化学とは」と問いかけておられます。国境を越えたネットワークであるインターネットによる情報の交流が、否応なしに国家間の文化の違いを浮き彫りにし、その間の調整を迫っています。例えば、インターネットを介して、ソフトウェアや、映像、音楽など著作物を売買する電子商取引に課税をかけるべきかどうかという論争が、先進国の大臣級会議で行われています。音楽や映像を含むソフト産業で覇権的な地位を築いた米国は、非関税で流通規制がないのが望ましいという見解であり、一方、米国文化の野放図な流入を食い止めたい、EUは、関税が必要であるという立場をとっているそうです。情報化と国際化を切り放しては論じられない世の中になってきました。情報文化学部の存在意義が、ますますクローズアップされてきたといっても過言ではないでしょう。

今号は、新入生特集として、新入生諸君に、入学して2カ月たった時点での、大学生活への抱負や感想を語ってもらいました。最初の卒業生を送り出してみて、1年生の時には人前で話すこともできなかった学生が、就職活動をする頃には、見送るようにコミュニケーションできるようになるのを目のあたりにして、大学4年間の成長の大きさを実感しました。新入生諸君の3年後、4年後が楽しみです。